

## 2020年度文部科学省・日本人学校教育環境整備事業

### 「ICTを活用した教育体制構築に関する実証事業」

#### 講評

評価者： 福本 徹

国立教育政策研究所

教育研究情報推進室 総括研究官

#### 学校名

深圳日本人学校

#### キーワード

クラウド活用、個別最適な学び、学習評価

#### 講評

「非常時でも途切れない『学びの保障』」を構築するにとどまらず、ICTおよびクラウド環境を活用して個別最適化学習を創造し、その上で成果と課題を明らかにしたものです。

主に電子黒板・PCとカメラ、電子黒板、黒板、対面形式で使用する机・イスを有効に配置し、ハイブリッド授業を実施しました。遠隔の児童生徒は黒板と授業者、授業者は対面の児童生徒と遠隔の児童生徒を同時に見ることができます。この状況では児童生徒全体を瞬時に把握することが難しいため、遠隔の児童生徒を電子黒板に映し出す工夫を行っていました。これにより、児童生徒の学習に対する集中力が高まるとともに、渡航状況によって教科書を手に入れられていない児童生徒やであっても学習に参加することができました。

また、ロイロノートとZoomを活用し、遠隔授業での児童生徒の学習状況の把握につとめ、学習評価を行える状況になりました。実践で使用したロイロノートは、ノートの記述など学習の記録や成果をすぐに共有でき、児童生徒の学習のつまづきや興味・関心を把握することができます。教員は、ロイロノートに現れた学習状況をもとに、学習課題および学習活動を把握し次の指導計画に生かしました。児童生徒がロイロノートから自分自身の学習の軌跡をたどり、自身の変容をメタ認知することができました。

そして、個別最適な学びについても、学習過程や成果の共有、メタ認知などの視点で階層分けを行った上で、様々な学年や教科で実践を行いました。これにより、教職員の児童生徒一人一人の理解および習熟度を理解しようとする意識が高まり、また、児童生徒の自己評価力が高まりました。

教職員全体のICT活用能力も高まりました。校内研修や研究授業等を通して、「ICTを恐れず、まずは使ってみる」という雰囲気をつくることができ、ICT機器を用いる際の指導や家庭への啓発によって、ネットリテラシーに関する教育効果も確認できました。

Zoomとロイロノートを用いた遠隔授業の実践、および、ロイロノート等の学習基盤クラウドシステムによる個別最適化学習の導入という点で、大変参考になるものです。